



流木対策事業の効果検証調査

森林の有する土砂崩壊・流出防止などの防災機能を強化することで、流木災害の発生を防止できるように、大阪府が実施する対策事業の効果検証調査を行っています。

流木災害とは？



- 流木災害とは、溪流内や溪流周辺の木が土石流と共に流れ出すことによって発生する災害です。
- 流木が川の流れをさえぎって洪水や土石流を助長することで、被害が増大してしまうことが大きな問題です。
- 近年の集中豪雨の増加と、森林の手入れ不足が原因で、流木災害の発生が増加しており、対策の必要性が高まっています。

大阪府による流木対策事業



- 流木の発生を未然に防げるよう、増水時に流木となる危険性の高い立木を伐採しています。
- 流木となりうる木を減らし、森林が防災機能を発揮できるように、手入れの遅れている森林を対象に、木の本数を半分に減らす大規模な間伐を行っています。

効果検証調査



流木調査

- 対策事業地やその付近の溪流域において、大雨の前後で溪流内の倒木等の位置を測量することで、流木の発生量を調査しています。
- これまでの調査の結果から、対策事業によって流木の発生が抑えられていることが分かってきました。

表面土壌の侵食量の調査



- 木の本数を半分に減らすような大規模な間伐では、下層植生の増加が期待できる半面、雨が直接地面にあたりやすくなり、土壌が侵食される可能性があります。
- そのため対策事業地で毎月モニタリング調査を行い、表面土壌の侵食量や下層植生の変化を把握することで、流木災害の発生予防に役立てています。